

資料3 名護市中心市街地まちづくりの方向性

令和7年2月13日(木) 名護市

1. 住民ワークショップでのご意見

2. 高校生アンケートでのご意見

3. さくら祭りでの歩行者天国の様子・実証実験での意見

4. 名護市中心市街地まちづくりのコンセプトの考え方

5. 名護市中心市街地まちづくりのゾーニングの考え方

6. 災害発生時のイメージ

1. 住民ワークショップでのご意見

■ R6年度住民ワークショップ

- 今年度のワークショップは、「総合交通ターミナルに求める機能」及び「中心市街地エリアとの連携イメージ」を意見交換を行った。
- 抽出した機能の具体的な利用イメージについて意見交換することで、総合交通ターミナルの具体化とあわせて中心市街地の今後展開について整理した。また、市民の本事業への愛着・参加意欲醸成に寄与する「ロゴマーク」のとりまとめに向け、ロゴマーク作成の要素となるキーワード等の意見交換を実施した。 ※前回第1,2回の報告を行ったため、今回は第3回でのご意見を追加報告する。

<住民ワークショップの実施概要>

	実施時期	参加人数	参加者	実施内容（案）
第1回	令和6年10月23日（水） 14～16時	21名	自治区（城区、大中区、大東区、港区）、通り会等（飲食店、物販、薬局、ラジオ 等）、学生（名桜大、琉大）	①対象エリア周辺のありたい暮らしの意見交換 ②「賑わい・交流」等に関する利用イメージや中心市街地と連携できる事項について意見交換
第2回	令和6年11月27日（水） 15～17時	15名		①「賑わい・交流」等に関する利用イメージや中心市街地と連携できる事項について意見交換 ②「防災」に関する利用イメージや中心市街地と連携できる事項について意見交換 ③ロゴマーク作成の要素となるキーワード出し
第3回	令和7年 1月21日（水） 15～17時	14名		①「交通」に関する利用イメージや中心市街地と連携できる事項について意見交換 ②事務局が作成したロゴマークに関する意見出し

第1回開催風景



第2回開催風景



第3回開催風景



1. 住民ワークショップでのご意見

■【参考】R6年度住民ワークショップの実施結果（第1回：令和6年10月23日実施、第2回：令和6年11月27日実施）

- ・総合交通ターミナルとなる「集客施設・交通結節点」では、ふらっと立ち寄れる店舗や特産物販売所といった訪問対象となる機能のほか、観光案内所や無料駐車場といった後背市街地へ誘導する情報発信、中心市街地で不足している機能の補完に関する意見が出た。
- ・地域を繋ぐ「シンボルロード」では、イベントや休憩で使える広場的な利用や日差し等を踏まえ快適に移動できる空間整備に関する意見が出た。
- ・「中心市街地エリア」では、名護市を訪れた多くの人が集まる場所として賑わい創出に寄与する公園や集客施設等が立地に関する意見が出た。

■第1回・第2回wsにおける「賑わい・交流」等に関する主な意見

【集客施設・交通結節点】

- ・無目的に行ける店舗の充実
- ・やんばる地域の特産物を集めた販売所
- ・周遊を促す情報提供を行う観光案内所
- ・市民が利用しやすい無料駐車場
- ・船着き場の雰囲気形成するフィッシャーマンズワフ（海鮮飲食店）
- ・海関連アクティビティの提供
- ・市街地へ誘導する情報発信機能
- ・様々なテーマのターミナルから市内散策ツアーのスタート地点

等

【シンボルロード】

- ・自由に使えるイベント広場
- ・休憩できる椅子、スペース
- ・日陰（アーケード、植栽他）
- ・通りの賑わい形成に寄与するキッチンカー
- ・休憩やイベントができる広場
- ・屋外で飲食ができる空間
- ・降雨時や日射がキツイ時でも快適に移動できる屋根のある通り
- ・歩くと地域の歴史・文化を感じ・知ることができる通りづくり

等

【中心市街地エリア】

- ・溜まり空間（公園等）
- ・集客施設（ミニシアター、ボーリング場）
- ・空き店舗（バーや飲食店）の元の雰囲気を活かした宿泊施設
- ・いつでも停めることができる立体駐車場
- ・子どもと高齢者の交流空間（学童・一時預かり、高齢者施設）
- ・ターミナル・総合交通ターミナルとまちを繋ぐ仕掛け

等

1. 住民ワークショップでのご意見

■【参考】R6年度住民ワークショップの実施結果（第2回：令和6年11月27日実施）

- ・「集客施設・交通結節点」では、多くの利用者が想定される中、海に近接するため、垂直避難への対応や利用者として想定されるインバウンドの避難支援、防災備蓄に関する意見が出た。
- ・「シンボルロード」では、高台に向けた避難路として機能確保や一定程度の開けた空間として一次的な避難に対応可能な設備等の導入に関する意見が出た。
- ・「中心市街地エリア」では、浸水想定区域内であるため垂直避難が可能な建物の確保や円滑な避難を支援する案内等の拡充に関する意見が出た。

■第2回wsにおける「防災」に関する主な意見

【集客施設・交通結節点】

- ・一時避難場所（垂直避難）
- ・デジタルサイネージ（避難情報等の広報）
- ・防災備蓄倉庫
- ・インバウンドの避難支援（多言語対応）

等

【シンボルロード】

- ・防災広場（防災キャンプ）
- ・非常用トイレ
- ・非常用電源
- ・地震等の際に安全に避難できる避難路（沿道建物の耐震化）

等

【中心市街地エリア】

- ・垂直避難が可能な建物
- ・避難用備蓄の充実
- ・避難用の案内（サイン、防災無線 等）
- ・水はけのよい市街地整備（地域のかさ上げ等）

等

1. 住民ワークショップでのご意見

■ R6年度住民ワークショップの実施結果（第3回：令和7年1月21日実施）

追加報告

- ・「集客施設・交通結節点」では、多くの市民が交通結節点での乗り換えが想定されるため、他地域に移動する場合の駐車場や市民の送迎のための乗降スペース、乗換の待機時間を快適にする待機室の整備、天候に寄らず各交通機関の乗り換えを容易とする屋根付きの通路、訪問者を中心市街地に誘導する情報発信、集客施設・交通結節点に人を呼び込む集約機能に関する意見が出た。
- ・「シンボルロード」及び「中心市街地エリア」では、集客施設・交通結節点と連動した予約、決済等が一元化できるシステムを導入した店舗の充実、市民がまちなかを回遊するよう集客施設・交通結節点以外の駐車場確保や集客施設・交通結節点への移動手段（シャトルバス等）の確保に関する意見が出た。

■ 第3回wsにおける「交通」に関する主な意見

【集客施設・交通結節点】

- ・市民の乗り換え用の大型駐車場
- ・市民の送迎のための乗降スペース
- ・沖縄の気候に配慮した空調付きの待合室
- ・滞在時間を気にしないカフェやコワーキングスペース
- ・高速船から公共交通の乗り換え時の屋根付通路
- ・漁港から市街地へのスムーズな移動ができる空間づくり
- ・名護市の各エリアについてわかるデジタルサイネージ
- ・街オリジナル発信の口コミ電子掲示板
- ・本施設が目的となるような映画館等の娯楽施設が立地する複合商業施設

等

【シンボルロード】、

【中心市街地エリア】

- ・シームレスな予約、キャッシュレス決済システムを導入した店舗の充実
- ・カフェ、ワーケーション施設の充実
- ・駐車場及びシャトルバス

等

1. 住民ワークショップでのご意見

■ R6年度住民ワークショップの実施結果（第3回：令和7年1月21日実施）

追加報告

- ・第2回ワークショップ及び高校生アンケート調査で出た本事業及び中心市街地の将来像に向けたキーワードを踏まえ、下記の案を作成した。
- ・ロゴマークの方向性として、資料等に用いる利用シーンを想定した要素の絞り込み、一目で見て名護市だと分かるカタチや色（名護市の市章等の緑色系を活用）に関する意見が出た。

① 総合交通ターミナルを強調した案	② 周辺と一体となったまちづくりを強調した案	③ ①及び②の要素を組み合わせた案
		

■ ロゴマークに関する主な意見

【主な意見】

- ・資料等に用いる利用シーンを考えると盛り込む要素は絞った方がよい
- ・名護らしさを表すものとして、「ナ」の字といった特徴を出した方がよい
- ・③は整備イメージ（案）の俯瞰図を活用して要素の配置を見直した方がよい※
- ・色合いは、名護市の市章等に用いられる緑色系がよい

等

※既存の資源・施設配置をレイアウトに反映



1. 住民ワークショップでのご意見

2. 高校生アンケートでのご意見

3. さくら祭りでの歩行者天国の様子・実証実験での意見

4. 名護市中心市街地まちづくりのコンセプトの考え方

5. 名護市中心市街地まちづくりのゾーニングの考え方

6. 災害発生時のイメージ

2. 高校生アンケートでのご意見

■ 高校生アンケート調査の概要

- 高校生アンケート調査では、名護市内の高校生を対象に、「総合交通ターミナル及び中心市街地エリアへの期待・アイデア」及び「交通結節点として求められる機能やニーズ」について把握した。また、次年度以降の意向醸成やイベント等の取組み実施に際しての協力先候補を把握した。

項目	内容
実施期間	令和7年1月6日～10日
調査対象	名護市内の高校に通う生徒：1,792名 県立名護高校：941名（2023年4月時点） 県立北部農林高校：380名（2024年4月時点） 県立名護商工高校：471名（2024年5月時点）
回収率・数	60.5%・1084通
調査方法	WEBアンケート調査（QR・URL付調査協力依頼チラシを配布）
調査項目	1. 回答者基礎情報 2. 総合交通ターミナル・中心市街地エリアへの期待・アイデア 3. 総合交通ターミナル・中心市街地エリアに欲しい機能 4. キャッチコピーのアイデア 5. 本事業への関心度と関連事業（イベントやWS）への参画意向

まちづくりに関するアンケート調査のお願い

～名護市総合交通ターミナル及び中心市街地エリアについて、みなさんのご意見を聞かせてください～

名護市内の高等学校に通う生徒の皆様へ

本市では、名護湾沿岸の魅力をいっそう高めることで、まちの賑わいを生み出し、市民の暮らしの魅力向上や滞在の促進、市街地の賑わい創出の起爆剤とすることを目指し、名護湾沿岸のまちづくりに取り組んでいます。

このアンケートは、みなさんと一緒にまちづくりを考えていこうと、将来を担う高校生のみなさんの考えや意見、アイデアをお聞きするものです。

「名護市の中心市街地がこんなまちだったらいい」、「こういうことが出来たらずっと暮らしたい」ということを考えながら、アンケートに回答してください。

ご協力をよろしくお願いいたします。

なお、記入・回答内容が、あなたの学校の成績や進路指導に使われることはありませんので、ご安心ください。また、このアンケートは名前を記入しませんので、個人を特定することはありません。

令和6年12月

名護市建設部まちなか再開発・公共交通課

アンケートの対象者	名護市内の高等学校に通う生徒
回答方法	右記のURLもしくはQRコードよりアクセスできるWEB回答フォームより回答 
回答期限	スマートフォンやパソコンで回答をお願いします 2025年1月17日（金）
回答上の注意	● 回答は保護者様でなく生徒の皆様本人でお願いします。 ● 回答の所要時間はおおむね10分程度です。 ● 御回答いただきました内容はすべて統計的に処理し、調査目的以外に使用することはありません。
問い合わせ先	＜調査業務委託先＞（株）オリエンタルコンサルタンツ 担当：高橋、並木、齋藤 電話：03-6311-7856 名護市建設部まちなか再開発・公共交通課 担当：伊波、比嘉 Mail：machinakakoutsu@city.nago.lg.jp

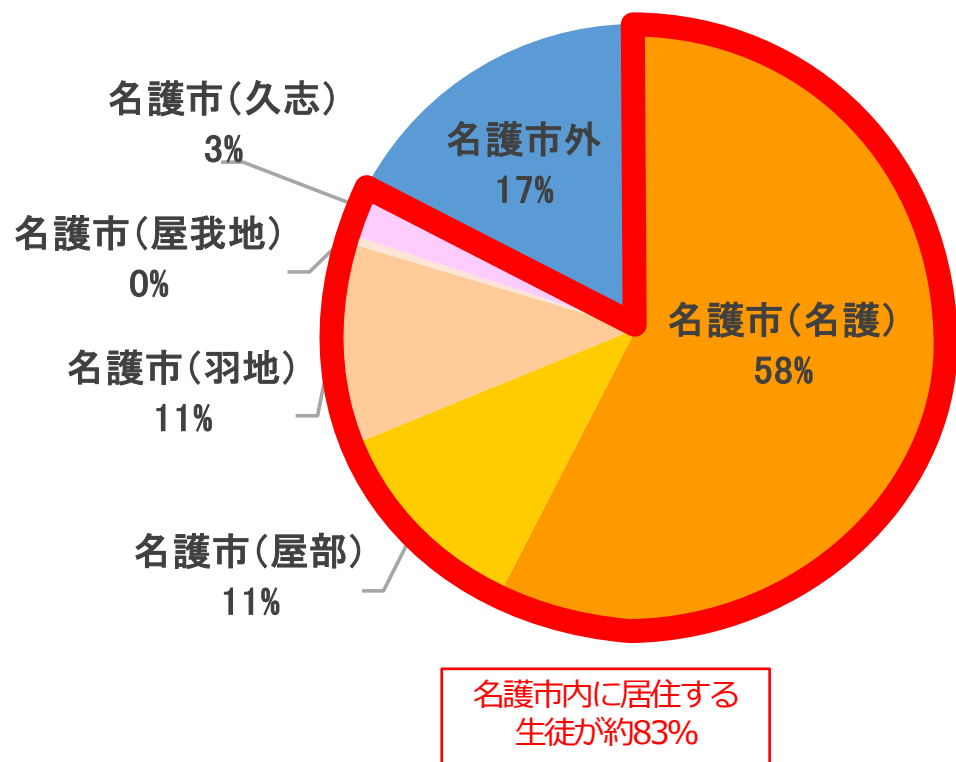
調査協力依頼チラシ

2. 高校生アンケートでのご意見

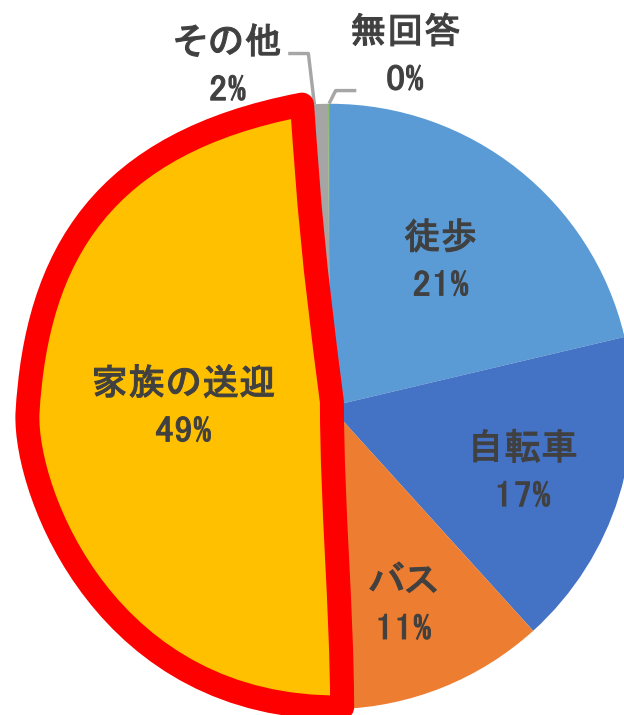
■ 高校生アンケート調査の結果（抜粋）

- 名護市内の3校に通う学生の居住地は、「名護市（名護地域）（約58%）」が最も多く、名護市全体では約83%となっている。名護市外の生徒は約17%であった。
- 通学方法は、「家族の送迎（約49%）」が最も多く、次いで「徒歩（約21%）」、「自転車（約17%）」となっている。公共交通を利用したバスでの通学は約11%であった。

■ 居住地（単一回答）



■ 通学方法（単一回答）

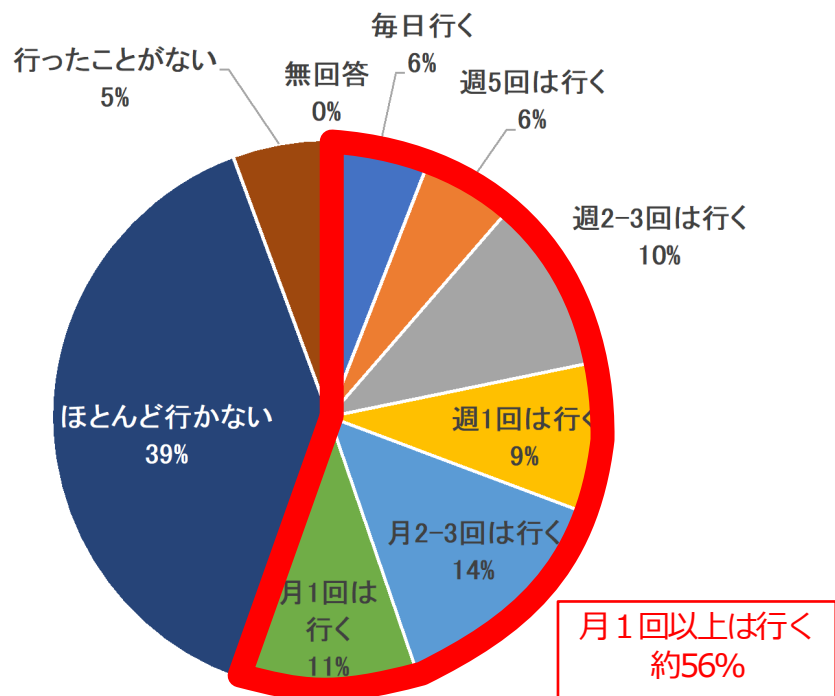


2. 高校生アンケートでのご意見

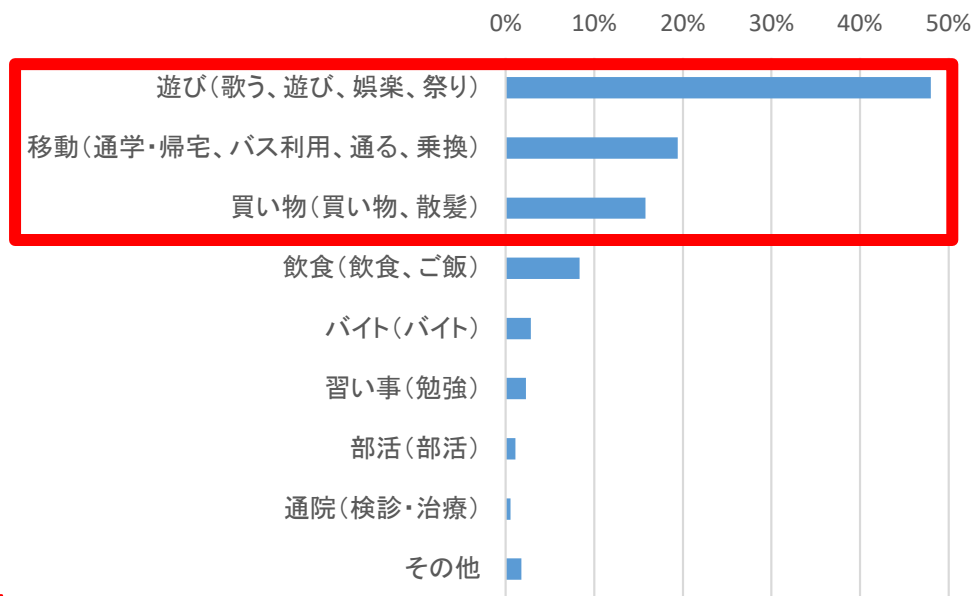
■ 高校生アンケート調査の結果（抜粋）

- 総合交通ターミナル及び中心市街地周辺への訪問状況は、「ほとんど行かない（約39%）」が最も多いが、月1回以上は行くが約56%となっている。
- 名護十字路周辺に行ったことがある生徒の訪問目的は、「遊び」が最も多く、次いで移動や買い物となっていた。

■ 名護十字路周辺に行ったことはあるか（単一回答）



■ 訪問目的（複数回答）



<その他回答（抜粋）>

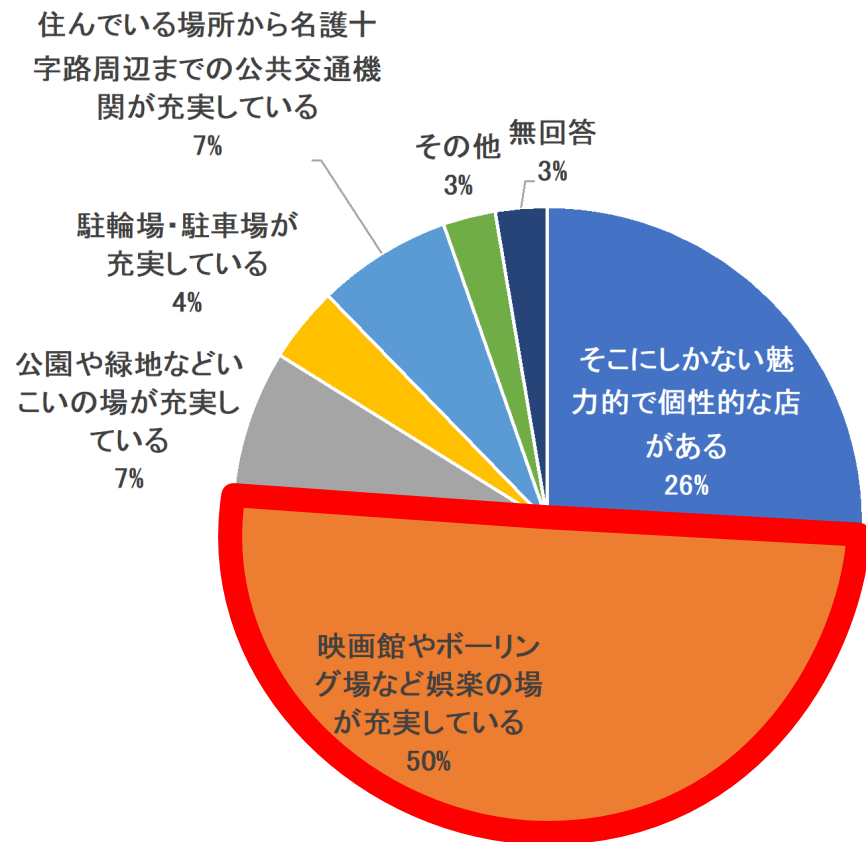
- 両親の職場への付き添い
- 両親の仕事終わりまでの時間潰し
- お手伝い
- 市役所等での手続き
- 等

2. 高校生アンケートでのご意見

■ 高校生アンケート調査の結果（抜粋）

- 総合交通ターミナル及び中心市街地周辺の将来的なあり方は、「映画館やボーリング場など娯楽の場が充実している（約50%）」が最も多く、次いで「そこにしかない魅力的で個性的な店がある（約26%）」となっている。

■ 名護十字路周辺（名護市中心市街地）がどのような場所になるとよいと思うか（単一回答）



■ 名護十字路周辺（名護市中心市街地）の将来像を表す言葉の提案

<回答（抜粋）>

- ・ 安心・安全で老若男女が生き生き過ごせる街づくり
- ・ 誰もが安心・安全に楽しめる名護らしさ満開の場所
- ・ みんな集まる名護十字路
- ・ 誰でも集える古風な憩い場
- ・ 世代幅広く集まれる落ち着くところ
- ・ 人々の交ない（おまじない）の場
- ・ 人と人を繋げる場所
- ・ 笑顔溢れる名護の中心地
- ・ なごむ名護市
- ・ やんばるの玄関口
- ・ 名護文化で賑わうところ
- ・ 自然豊かで過ごしやすい町
- ・ さくらとあなたの未来と素敵な街作り
- ・ 人と繋がるみんなと繋がる
- ・ 自然と魅力あふれる名護市

等

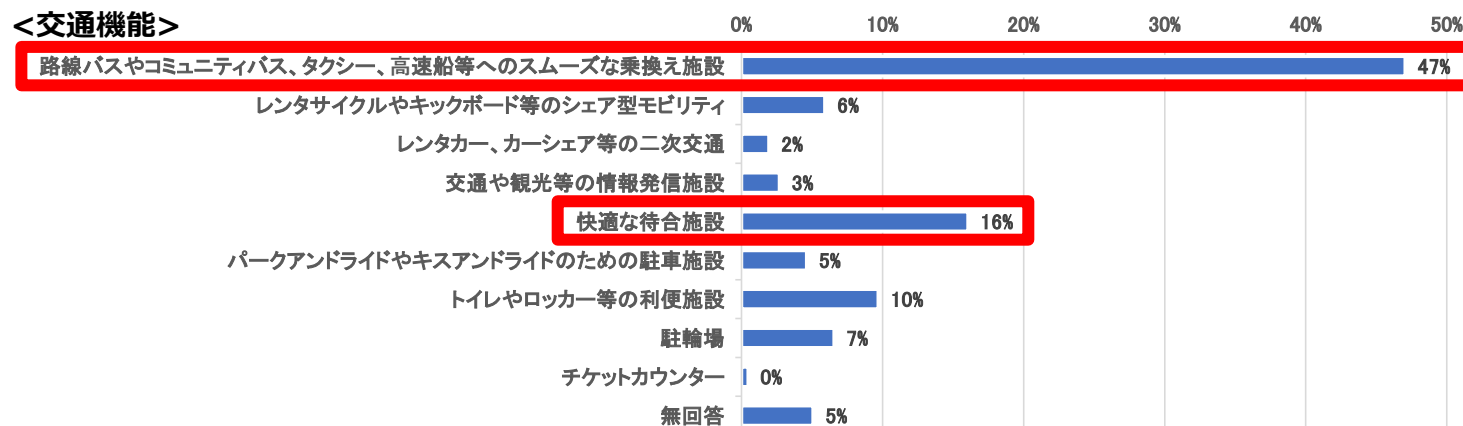
2. 高校生アンケートでのご意見

■ 高校生アンケート調査の結果（抜粋）

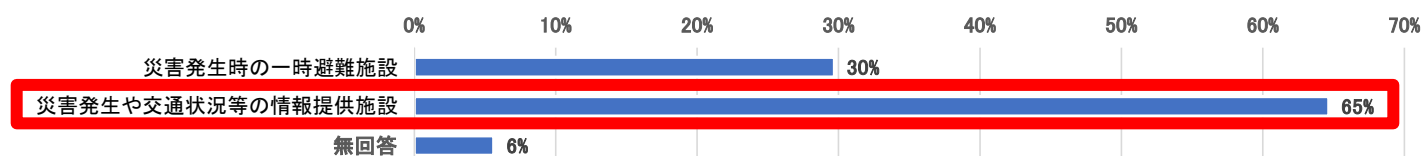
- ・「交通機能」では、「スムーズな乗換え施設（約47%）」、「快適な待合施設（約16%）」の回答が多い。
- ・「防災機能」では、「災害発生や交通状況等の情報提供施設（約65%）」の回答が多い。
- ・「交流等機能」では、「飲食や物販施設（約43%）」、「地域イベントや文化等の情報発信施設（約19%）」の回答が多い。

■ 総合交通ターミナルを整備するにあたり、あったら良いと思われる機能や施設（複数回答）

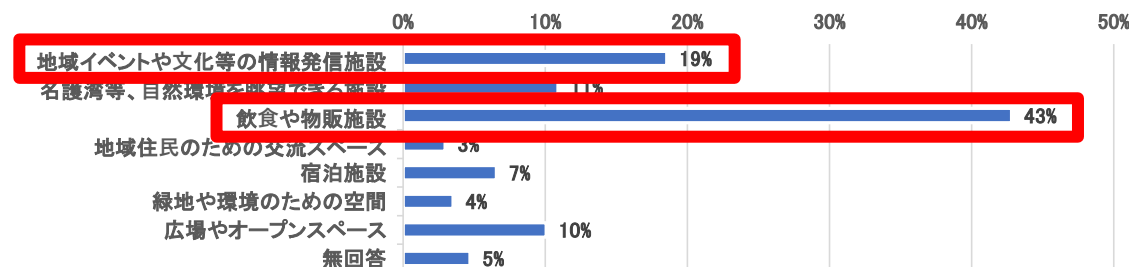
<交通機能>



<防災機能>



<交流等機能>

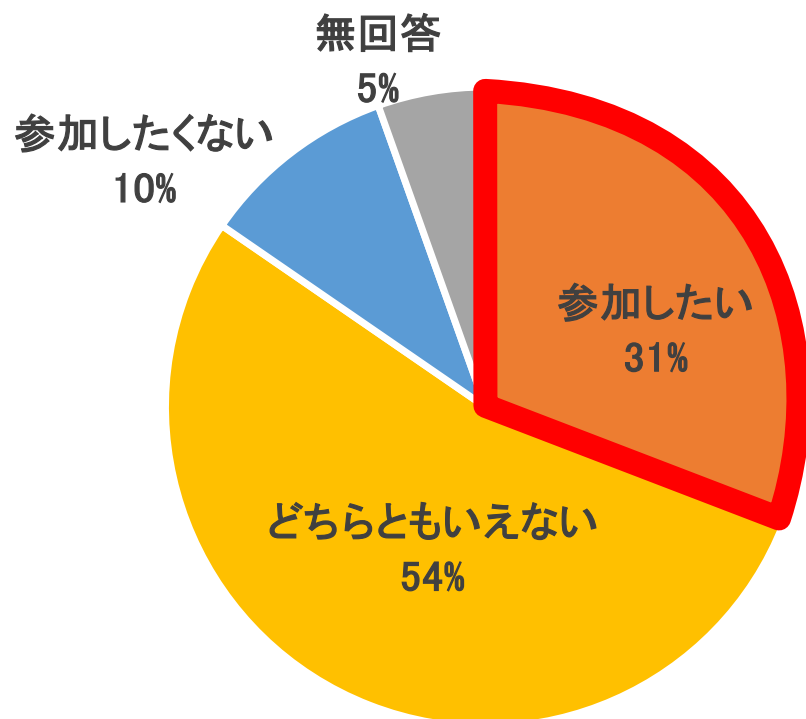


2. 高校生アンケートでのご意見

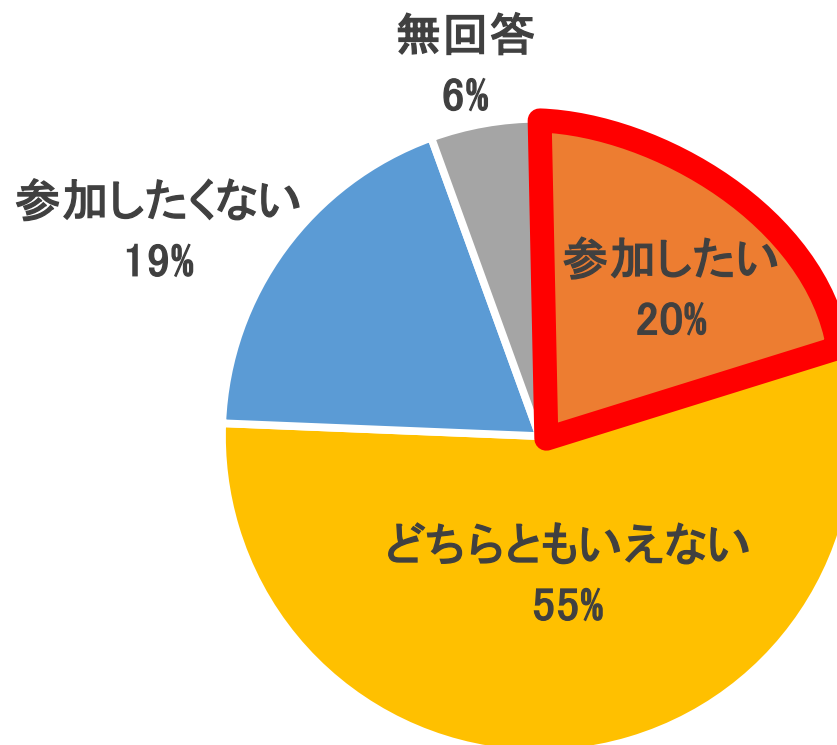
■ 高校生アンケート調査の結果（抜粋）

- ・総合交通ターミナルの具体化に向けたイベントやワークショップへの参加意向として、「参加したい（約31%）」の回答があった。
- ・イベントやワークショップのプログラムを企画・開催する側としての参加意向として、「参加したい（約20%）」の回答があった。

■ 総合交通ターミナルの具体化に向けたイベントやワークショップへの参加意向（単一回答）



■ イベントやワークショップへのプログラムを企画・開催する側としての参加意思（単一回答）



1. 住民ワークショップでのご意見

2. 高校生アンケートでのご意見

3. さくら祭りでの歩行者天国の様子・実証実験での意見

4. 名護市中心市街地まちづくりのコンセプトの考え方

5. 名護市中心市街地まちづくりのゾーニングの考え方

6. 災害発生時のイメージ

7. 名護市総合交通ターミナルの整備イメージ

3. さくら祭りでの歩行者天国の様子・実証実験での意見

■ 実証実験の開催概要と実施結果

- 二次交通に対する利用者・事業者のニーズや導入・運営における課題、公共交通利用促進・利便性向上に向けた課題等を把握するための実証実験を実施した。
- 利用者数は下記の通り。
レンタサイクル：9名、電動キックボード：26名、WHILL：15名（沖縄トヨタ自動車主催のツアー参加者を含む）

<実施時期>

2025年1月25日（土）・26日（日）9時～17時
※第62回名護さくら祭りの2日間

<貸出し場所>

- 名護漁港
- 市民会館
- 名護市役所
- 名護市営市場

<貸出しを実施した二次交通（イメージ）>

レンタサイクル	電動キックボード	歩行領域モビリティ (WHILL)
		
出典：株式会社スィーツ	出典：BRJ株式会社	出典：WHILL株式会社



<実証実験の様子>

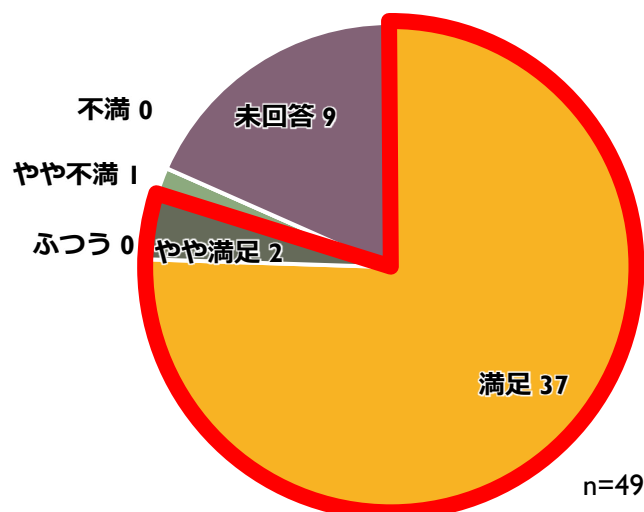


3. さくら祭りでの歩行者天国の様子・実証実験での意見

■ 二次交通利用者へのアンケート調査結果（速報）

- ・二次交通利用者を対象にアンケート調査を実施し、名護市総合交通ターミナルにおける二次交通のニーズ等を把握した。
- ・アンケート回答数は332サンプルで、アンケートの結果、二次交通の利用満足度は高く、レンタサイクルや電動キックボード、レンタカーのニーズが高いことがわかった。

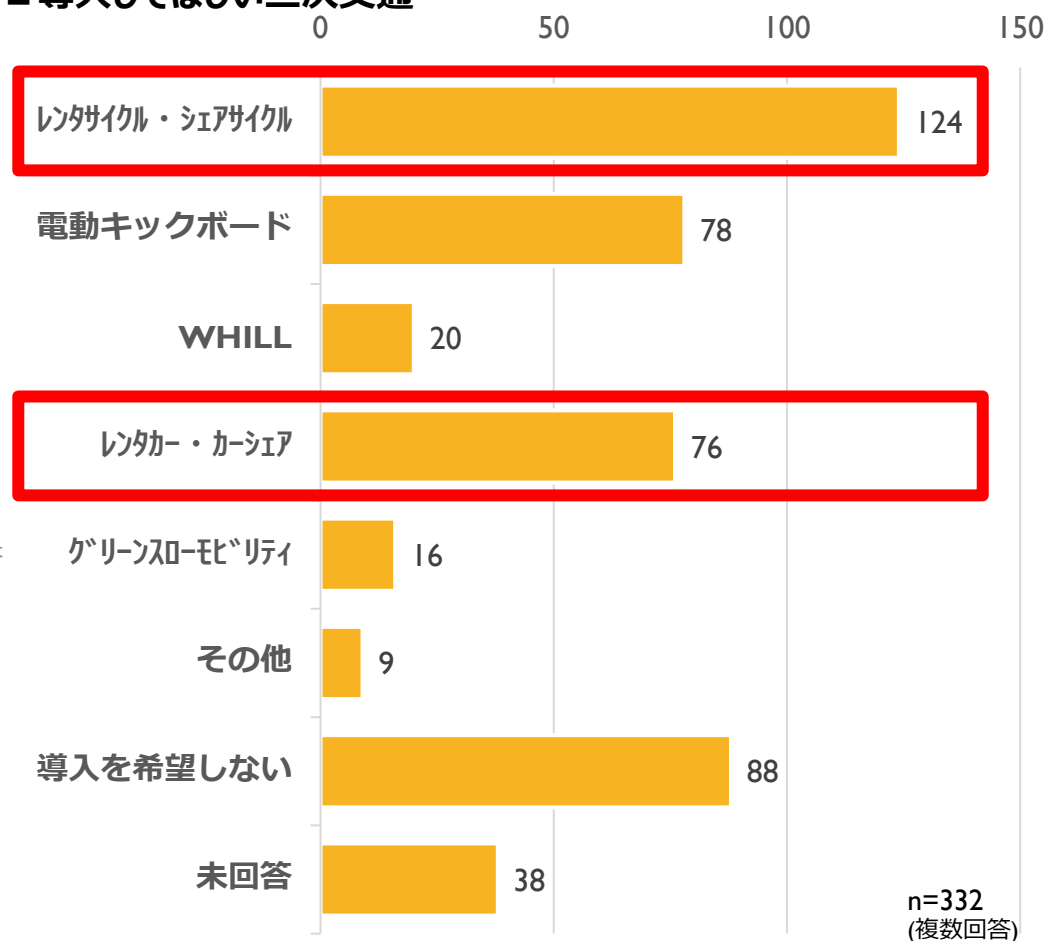
■ 利用した際の満足度



＜アンケートの様子＞ 社会実験に参加された50名の内49名が回答



■ 導入してほしい二次交通



社会実験に参加された方を含む、祭り参加者や徒歩移動の方々、332名が回答

3. さくら祭りでの歩行者天国の様子・実証実験での意見

■ さくら祭りでの歩行者等の状況

- ・さくら祭りでは県道84号線（名護大通り）大西通～ひんぷんガジュマルを歩行者天国に設定。自動車での来場者は名護漁港の臨時駐車場から徒歩、または周遊バスで移動。
⇒県道71号線（名護漁港から名護十字路）の歩道、歩行者天国は多くの歩行者が通行。
- ・県道84号線を通行する路線バスは、県道91号線（本部循環線）に仮バス停を設置し、運行。
⇒仮バス停で乗降する利用者も見られ、県道91号線に渋滞発生しなかった。

<さくら祭りの概要>



<歩行者やバス利用者の状況>



(県道71号線は、午後、祭り会場に向かう人と駐車場に戻る人で歩道上が混雑)



(名護漁港の臨時駐車場から会場に向かう人で歩道橋が混雑)



(県道91号線に仮バス停を設置。特に渋滞は発生しなかった)

1. 住民ワークショップでのご意見
2. 高校生アンケートでのご意見
3. さくら祭りでの歩行者天国の様子・実証実験での意見

4. 名護市中心市街地まちづくりのコンセプトの考え方

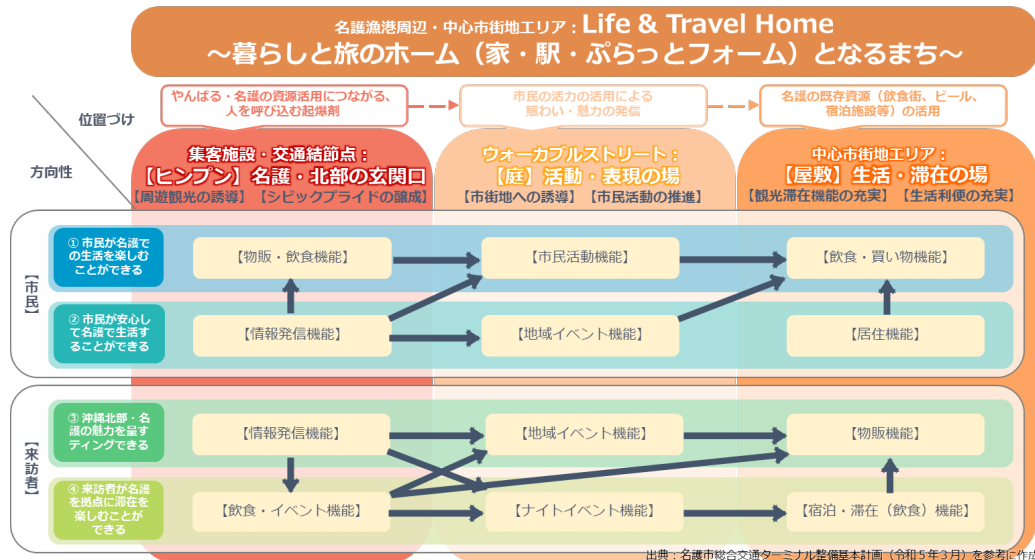
5. 名護市中心市街地まちづくりのゾーニングの考え方
6. 災害発生時のイメージ
7. 名護市総合交通ターミナルの整備イメージ

4. 名護市中心市街地まちづくりのコンセプトの考え方

■名護市中心市街地まちづくりのコンセプトは、

- これまでの経緯を踏まえ、名護市総合交通ターミナル整備基本計画における名護漁港周辺・中心市街地エリアのコンセプトである『Life & Travel Home ～暮らしと旅のホーム（家・駅・プラットフォーム）となるまち～』の考え方をベースに、これまでの意見や住民ワークショップの意見を取り入れ、以下のとおりまとめた。

＜名護市総合交通ターミナル整備基本計画のコンセプト＞



＜これまでの意見やワークショップ/アンケートの意見＞

【集客施設・交通結節点】

- ・漁港側と市街地側での**一体的な賑わい創出の起点**
 - ・船着き場の雰囲気形成するフィッシャーマンズワーフ（**海鮮飲食店**）
 - ・海関連アクティビティの提供 ・**市街地へ誘導する情報発信機能**
 - ・様々なテーマのターミナルから市内散策ツアーのスタート地点
- 等

【シンボルロード】

- ・**総合交通ターミナルとまちを繋ぎ、賑わいを波及させる仕掛け**
 - ・休憩やイベントができる広場 ・屋外で飲食ができる空間
 - ・降雨時や日射がキツイ時でも快適に移動できる屋根のある通り
 - ・歩くと地域の歴史・文化を感じ・知ることができる通り
- 等

【中心市街地エリア】

- ・子どもと高齢者の交流空間（学童・一時預かり、高齢者施設）
 - ・空き店舗（バーや飲食店）の元の雰囲気を活かした**リノベーション**
 - ・いつでも停めることができる**駐車場**
 - ・若者が楽しめる**娯楽施設の充実**
- 等

【防災】

- ・住民に加えて、**スワカスを持った来街者も移動しやすい、避難場所が分かりやすい・受入スペースの確保**
 - ・集客施設・交通結節点での**イベントの避難支援**（多言語対応等）
 - ・シンボルロードでの**安全に避難できるネットワークの確保**
 - ・中心市街地エリアでの**垂直避難が可能な建物・避難を支援する案内の拡充**
 - ・**名護漁港関係者の避難スペースの確保**
- 等

【名護らしさ】

- ・名護大通り等の**レトロ感**
 - ・中心市街地に点在する名護文化を伝える**歴史資源の集積**
 - ・海と街と山が近くコンパクトな町並み
 - ・店舗や飲食店が集積し、**交流わいわいした雰囲気**
- 等

1. 住民ワークショップでのご意見
2. 高校生アンケートでのご意見
3. さくら祭りでの歩行者天国の様子・実証実験での意見
4. 名護市中心市街地まちづくりのコンセプトの考え方
- 5. 名護市中心市街地まちづくりのゾーニングの考え方**
6. 災害発生時のイメージ
7. 名護市総合交通ターミナルの整備イメージ

5. 名護市中心市街地まちづくりのゾーニングの考え方

■ 名護市中心市街地まちづくりのゾーニングは、

- ・名護市中心市街地における、現在のまちの状況と名護市総合交通ターミナル検討部会での検討状況やこれまでの意見や住民ワークショップの意見を取り入れ、以下のとおりとりまとめた。
- ・名護市総合交通ターミナル等の交通拠点を中心にシンボルロードをつなぎ、**市街地エリアへ賑わいを波及させる**必要がある。

対象エリア全体の
ブランド

誰もがなごやかに過ごせる、「あけみおのまち・名護」の拠点

～ニライカナイから豊穡をもたらす青々とした水の流れるように、未来に向けて発展していくまち～

【庭】活動・表現の場

～市街地へ誘われる・名護での生活を楽しめる～

市民の活力の活用による、賑わい・魅力の発信

⇒シンボルロード・複合施設

【屋敷】生活・滞在の場

～名護の魅力を堪能できる～

名護の既存資源（飲食街、ビール、宿泊施設等）の活用

⇒**中心市街地エリア・名護漁港**

【ヒンプン】名護・北部の玄関口

～北部・名護の魅力を知らることができる～

やんばる・名護の資源活用につながる、人を呼び込み波及させる拠点

⇒**集客施設・交通結節点**



5. 名護市中心市街地まちづくりのゾーニングの考え方

■【ヒンプン】集客施設・交通結節点では、

- ・名護・北部の玄関口として、やんばる・名護の資源活用につながる、人を受け入れ波及させる拠点を形成する。
- ・特に集客施設では、**まちの中心市街地活性化施策等と連動した、一体的な拠点を形成する。**

【ヒンプン】名護・北部の玄関口

～北部・名護の魅力を知ることができる～

やんばる・名護の資源活用につながる、人を呼び込み波及させる拠点
⇒**集客施設・交通結節点**



交通結節点

- ・名護漁港周辺エリアがやんばるの生活・観光拠点
- ・「快適な公共交通利用環境」「公共交通の階層的な連携」「モータルコネクトの連携」



集客施設

- ・まちの中心市街地活性化施策等と連動した、一体的な拠点を形成
- ・「まちづくりと一体となった拠点形成」「やんばるの玄関口にふさわしい上質な空間」「拠点を核とした情報発信・交流の促進」



※1画像出典：読谷郡産業開発機構「道の駅「許田」リニューアルについて」（令和4年3月）

※2画像出典：恵庭市「道と川の駅「花ロードスにわ」観光案内情報デジタルサイネージ」

※3画像出典：道路新産業開発機構「道の駅「許田」リニューアルについて」（令和4年3月）

※4画像出典：名護市「名護湾沿岸（名護漁港周辺エリア）実施計画」（令和4年3月）

5. 名護市中心市街地まちづくりのゾーニングの考え方

■【庭】シンボルロード・複合施設では、

- ・活動・表現の場として、市民の活力の活用による、賑わい・魅力の発信し、市街地へ誘われる・生活を楽しめるまちを形成する。
- ・特にシンボルロードでは、イベントの開催や公共交通、地域資源の活用等により、**回遊性向上を図り、市街地への誘導を促進する。**

【庭】活動・表現の場

～市街地へ誘われる・名護での生活を楽しめる～

市民の活力の活用による、賑わい・魅力の発信

⇒シンボルロード・複合施設



シンボルロード

- ・連続性ある商業街区を形成し、**回遊性の向上、市街地へ誘導**
- ・季節に応じた**イベントの開催**、沿道店舗と一体となった**賑わい空間の創出**
- ・公共交通と歩行者優先の道路空間の形成、**シェアサイクルポート等の設置**
- ・**広場、緑地空間の創出**



イメージ図（海側から）



イメージ図（山側から）

複合施設

- ・中心部への誘客・集客性を高め、**公共サービス機能を核とする複合施設**
（例：市場機能の強化、図書館、多目的スペース、自習室、ボウリング、ミニシアター、映画館、イベント広場等（令和6年度住民ワークショップより））



集客性の高い公共施設



コミュニティ・ハブ※1

シンボルロードの后背ゾーン

- ・まちなかに人を引き込むため**宿泊・滞在、ミニティ、教育・文化、子育て、医療等の機能の複合**
- ・若者から高齢者、子育て世代までが**休憩・交流できる緑地空間を形成**

5. 名護市中心市街地まちづくりのゾーニングの考え方

■【屋敷】中心市街地エリア・名護漁港では、

- ・生活・滞在の場として、名護の既存資源(飲食街、ビール、宿泊施設等)を活用し、名護の魅力を堪能できるまちを形成する。
- ・なお、中心市街地エリアでは、**若者から高齢者、子育て世帯の誰もが住みやすく、過ごしやすいまちを形成する。**

【屋敷】生活・滞在の場

～名護の魅力を堪能できる～

名護の既存資源（飲食街、ビール、宿泊施設等）の活用
⇒中心市街地エリア・名護漁港



中心市街地エリア

- ・若者から高齢者、子育て世帯の誰もが住みやすく、過ごしやすいまち
- ・子どもと高齢者等が関わりを持ちながら安心して子育てができる、子育ての仲間ができる場（学童・一時預かり、高齢者施設）
- ・空き店舗（バーや飲食店）の元の雰囲気を活かしたリノベーション



敷地内の空地と公共空地の一体化※4



名護らしい路地※5

名護漁港

- ・中核漁港としての機能の集約化・高度化とともに、観光や商工業と連携



※4 画像出典：名護市「名護漁沿岸（名護漁港周辺エリア）実施計画」（令和4年3月）

※5 画像出典：名護市商工会HP

※6 画像出典：第一マリンサービス（株）HP

5. 名護市中心市街地まちづくりのゾーニングの考え方

■これまでの検討を踏まえた名護漁港周辺エリアの区域の考え方

- ・名護漁港周辺エリアは、人を呼び込む玄関口としての総合交通ターミナル、賑わい・魅力の発信を行うシンボルロード、名護の既存資源を活用する中心市街地に分けられる。

シンボルロード

- ・連続性ある商業街区を形成
- ・誘客・集客性を高める複合施設の配置

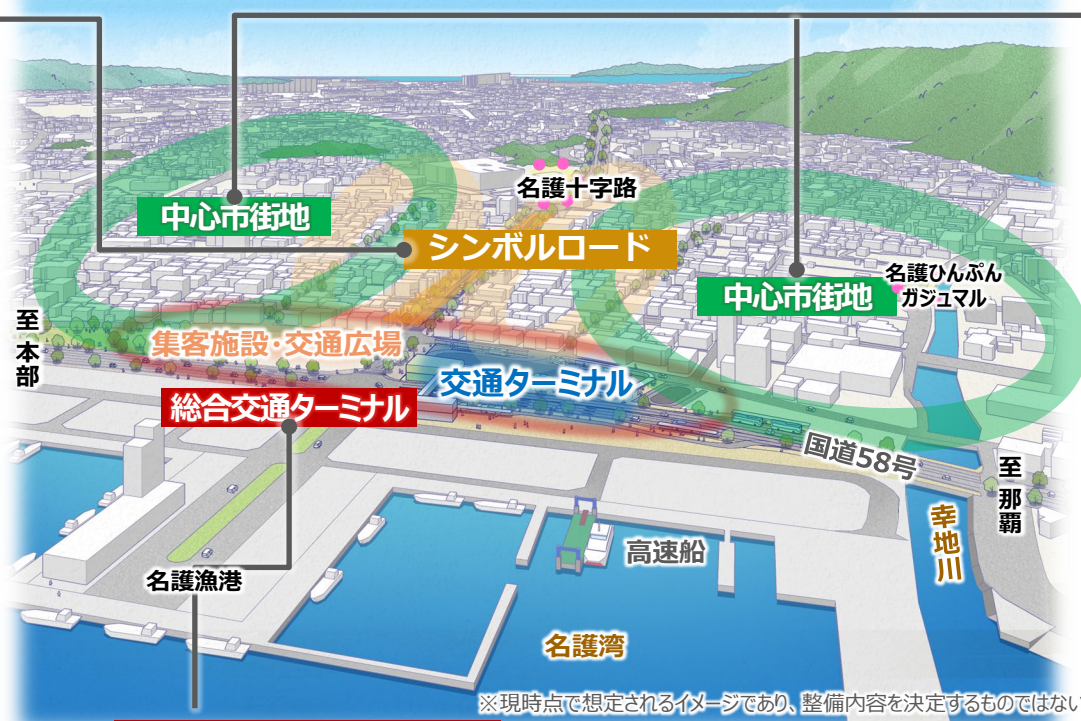
整備主体(案)：名護市
(民間事業者とも連携)



休憩・賑わいスペースの提供



山側から海側を見たときの
鳥瞰イメージ



中心市街地

- ・民間主導のリノベーション事業を進めるエリア
- ・若者から高齢者まで誰もが暮らしやすいまち

整備主体(案)：民間又は地権者等
(再開発エリアを含む)



敷地内の空地と
公共空地の一体化※1



名護らしい路地※2

総合交通ターミナル

集客施設・交通広場 (特定車両以外の車両の乗降場・駐車施設等)

- ・交通結節点としての利便性を活かし、拠点性を高める
- ・「まちづくりと一体となった拠点形成」、「やんばるの玄関口にふさわしい上質な空間」、「拠点を核とした情報発信・交流の促進」

交通ターミナル(特定車両停留施設)

- ・やんばるの生活・観光拠点
- ・「快適な公共交通利用環境」、「公共交通の階層的な連携」、「モーダルコネクトの連携」

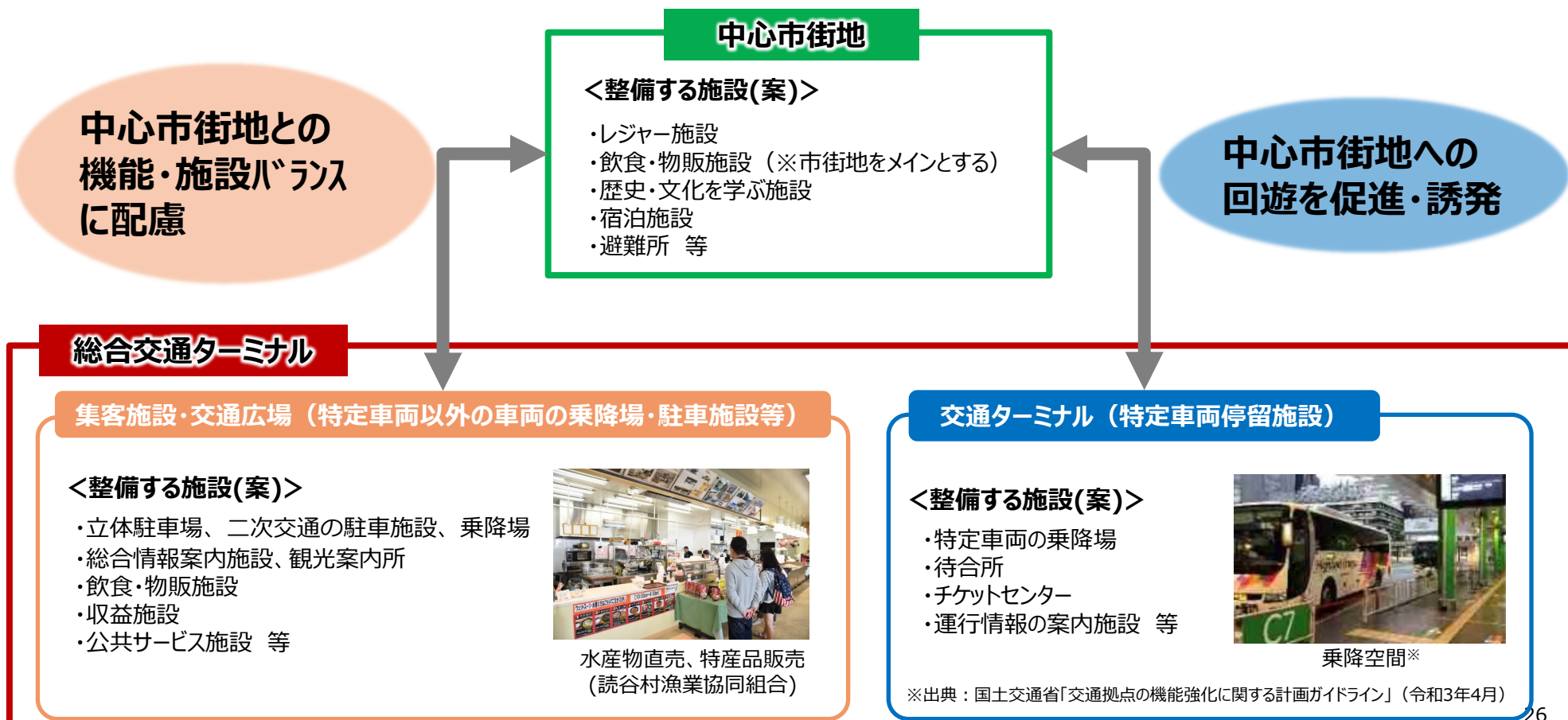
※1 画像出典：名護市「名護湾沿岸（名護漁港周辺エリア）実施計画」（令和4年3月）

※2 画像出典：名護市商工会HP

5. 名護市中心市街地まちづくりのゾーニングの考え方

■ 名護市中心市街地まちづくりにおける総合交通ターミナルの役割

- 総合交通ターミナルは交通ターミナル（特定車両停留施設）と集客施設・交通広場によって構成され、バス等の公共交通機能は交通ターミナルに、一般の送迎車両等の受入れ機能、浸水時の避難場所等の防災機能、交流等機能は集客施設・交通広場に整備することが想定される。
- 総合交通ターミナルを玄関口として、中心市街地への回遊を促進させることが必要なため、総合交通ターミナルの集客施設にすべての機能を集約するのではなく、中心市街地と機能・施設をバランスよく配置することが求められる。



5. 名護市中心市街地まちづくりのゾーニングの考え方

■ 集客施設・交通広場（特定車両以外の車両の乗降場・駐車施設等）に求められる機能（案）

（1）交通広場や駐車場機能（案）

- これまでの意見から、集客施設側には、特定車両停留施設以外の交通広場（一般車の送迎の乗降場）、立体駐車場、二次交通のポート等の導入が想定される。

施設一覧（案）	
立体駐車場（フリンジパーキング、P&R駐車場）	
レンタカー施設（受付）	
駐 車 施 設	送迎バス
	コミュニティバス（EVバス）待機場所・充電施設
	自動車送迎者用
	駐輪場・レンタサイクル
	カーシェア
	レンタカー
	シェアサイクル
	電動キックボード
	グリーンスローモビリティ、自動運転
誘導車線（車両が走行する車路）	
操車場所（車両が転回等をする場所）	
場 停 留 所	送迎バス（乗車）
	送迎バス（降車）
	自動車送迎者用
乗降場・旅客通路	
歩行者通路（交通モード間を接続する通路）	
運行情報の案内施設	

施設規模の考え方

- 立体駐車場には約300台分程度（集客施設利用者、中心市街地利用者合計）確保
- 二次交通の駐車施設、乗降場は沖縄県内の事例や、交通事業者ヒアリングを参考に規模を設定

▼交通広場のイメージ



イオンモール沖縄ライカム
出典：北中城村観光情報サイト

▼立体駐車場



豊見城市防災駐車場
出典：(仮称)豊見城市防災駐車場提案書(概略)

▼シェアサイクルポート



名護さくら祭り実証実験時の貸出ポート

5. 名護市中心市街地まちづくりのゾーニングの考え方

(2) 集客施設への導入機能（案）

- これまでの意見から、集客施設には情報発信機能、飲食・物販機能（漁港に関連したもの）、その他の収益機能、公共サービス機能、防災機能の導入が想定される。
- 中心市街地への回遊を促すため、宿泊施設や飲食・物販（漁港に関連しないもの）の機能は、中心市街地側への整備を想定する。

機能		施設一覧（案）	
情報発信機能	情報案内	総合情報案内コーナー 事務所	
	休憩	休憩・待合スペース 屋根付きデッキ トイレ・パウダーコーナー コインロッカー	
	眺望・シンボル	名護湾・夕陽が見えるデッキ	
飲食・物販機能	飲食	漁協直営食堂 水産物直売 特産品販売 フードコート BBQスペース、ビアガーデン	
	物販	コンビニ 自販機コーナー	
その他の収益施設	起業支援	キッチンラボ コワーキングスペース・交流ラウンジ	
公共サービス機能	—	アーバンデザインセンター	
	—	観光案内所	
	交流	イベントスペース 多目的室 展示スペース（ギャラリー）	
防災機能	防災	会議室等 災害時の情報提供施設 非常用発電機 緊急物資保管場所	
		その他	歩行者通路等

施設規模の考え方

- 総合交通ターミナル・集客施設の利用者約4,602人/日※のうち、2割程度の約900人/日程度が集客施設を利用することを想定
- 沖縄県内の道の駅や全国の交通結節点の施設規模を参考に各施設の規模を設定

※名護市総合交通ターミナル整備基本計画（令和5年3月）における利用者数試算結果

▼水産物直売、特産品販売



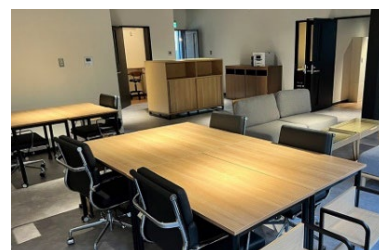
出典：読谷村漁業協同組合HP

▼フードコート



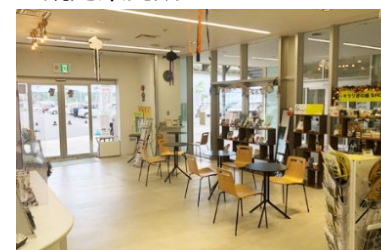
道の駅「いとまん」

▼コワーキングスペース・交流ラウンジ



出典：道の駅「やんばるパイナップルの丘安波」HP

▼観光案内所



出典：道の駅「ぎのぎ」HP

1. 住民ワークショップでのご意見
2. 高校生アンケートでのご意見
3. さくら祭りでの歩行者天国の様子・実証実験での意見
4. 名護市中心市街地まちづくりのコンセプトの考え方
5. 名護市中心市街地まちづくりのゾーニングの考え方

6. 災害発生時のイメージ

7. 名護市総合交通ターミナルの整備イメージ

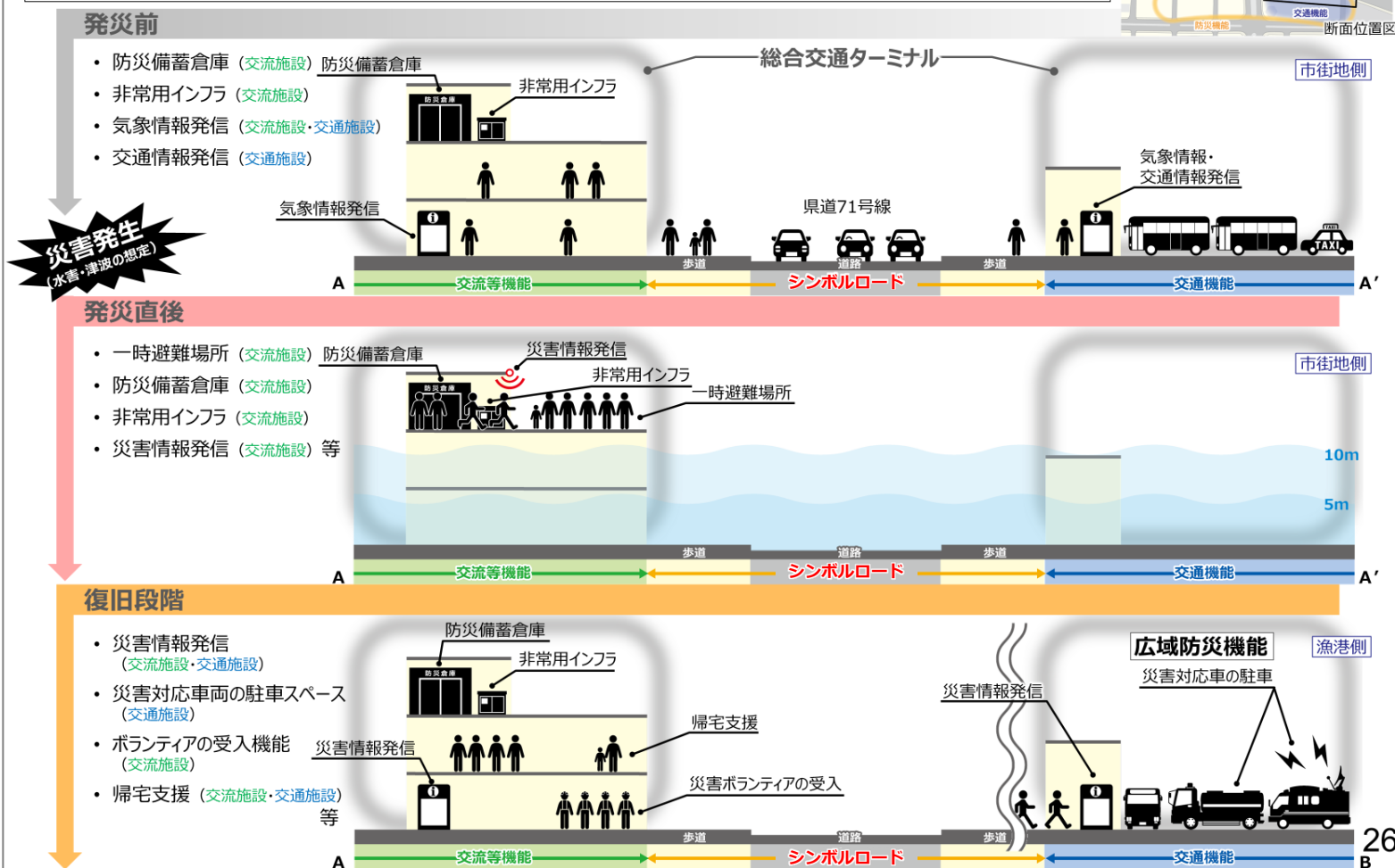
6. 災害発生時のイメージ

【参考】名護市総合交通ターミナルの防災機能（第3回 名護市総合交通ターミナル検討部会資料） ※一部表現を修正

3. 関係者ヒアリング等を踏まえた必要機能の考え方

3.3 防災機能に関する考え方

- 総合交通ターミナルにおいては、交流等機能側では防災備蓄や一時避難場所として活用し、交通機能側では主に復旧段階での広域防災支援活動に活用。



6. 災害発生時のイメージ

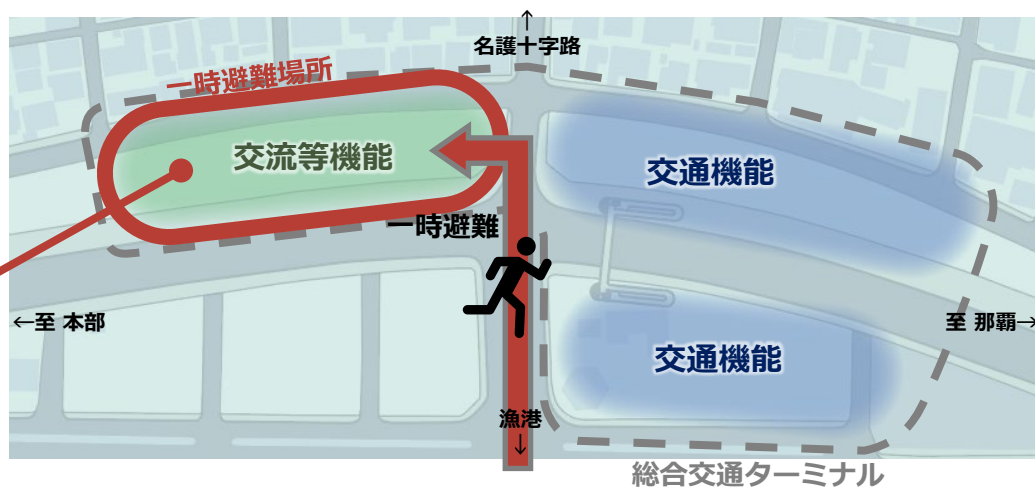
- 発災直後は交流等機能側を一時避難場所として活用し、復旧段階では交通機能側を広域防災支援拠点として活用する。

■名護市総合交通ターミナルの防災機能

発災直後：一時避難場所

浸水▶

- 一時避難場所
- 防災備蓄倉庫
- 非常用インフラ
- 災害情報発信



復旧段階：広域防災支援拠点（災害復旧拠点）

水が引いた後▶

- 災害情報発信
- ボランティアの受入機能(受付等)
- 帰宅支援



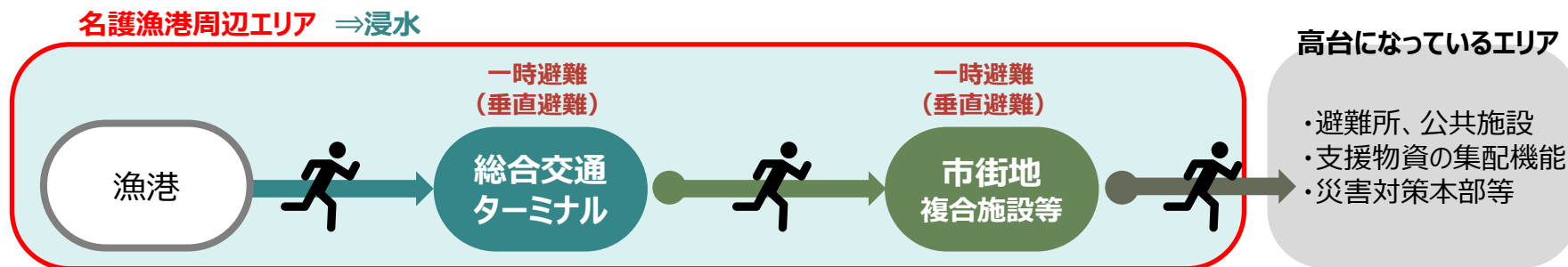
- 災害情報発信
- 災害対応車両の駐車スペース

6. 災害発生時のイメージ

- ・発災直後は、高台を目指す避難経路を基本としつつ、中継地点となる総合交通ターミナル、市街地の複合施設等に「一時避難（垂直避難）」する。
- ・復旧段階においては、総合交通ターミナルを、災害対応車両の駐車拠点、ボランティアの受入機能(受付等)を持つ「広域防災の支援拠点」として活用する。

■名護市総合交通ターミナルと市街地の関係

発災直後：一時避難場所



復旧段階：広域防災支援拠点（災害復旧拠点）

